

| | | | | | | | |
|-----|-----------|-----|---------------|----|----|-----|---|
| 科目名 | 国際経営論特殊研究 | 担当者 | シナト 階戸 テルオ 照雄 | 期間 | 通年 | 単位数 | 4 |
|-----|-----------|-----|---------------|----|----|-----|---|

【科目概要】

| | | | |
|---------|--|-----|--|
| 目的 | <p>今日のグローバル企業（米国，日本，欧州，アジアなど）は益々その活躍の場を世界に広めている。グローバル企業の現代的な課題と問題点を認識し，理解することにより，以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて，自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。</p> <p>II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し，独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し，ときに強い影響を与えることができる。</p> <p>IV. 集団の活動において，より良い成果を上げるために，他社と協働し，作業を行うとともに，指導者として他社の力を引き出し，その活躍を支援することができる。</p> | | |
| 到達目標 | <p>【一般目標（GIO）】 国際企業の経営者が会社経営において適切な意思決定を行うために，国際経営戦略の基礎から応用までの知識を修得することを一般目標とする。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 企業を巡る国際経営論はもとより，諸理論や経営課題について把握し，その中で個別企業がとっている行動の背景を理解・概観できるようになることである。</p> | | |
| 学修方法 | <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio を利用して，教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 ・manaba folio の掲示板や相互ディスカッションを利用して，受講者同士の協働学習を行う。 ・図書館，インターネット等で自ら論文検索して，レポートを作成する。 <p>【学修方略（LS）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本図書・教材の十分な理解，参考文献の検索と適切な理解，レポート作成，受講者同士のディスカッション，あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生によるディスカッションによりレポートの最終稿を完成させる。 <p>【学修時間】</p> <p>レポート課題1つにつき，完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の学修：20時間 ・レポート執筆：10時間 ・レポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導等を含む）：15時間 | | |
| スケジュール | <p><前期> ・レポート課題1 初稿締切期限：6月末 ★最終稿提出期限=前期締切日 ・レポート課題2 初稿締切期限：8月末 ★最終稿提出期限=前期締切日</p> <p><後期> ・レポート課題1 初稿締切期限：10月末 ★最終稿提出期限=後期締切日 ・レポート課題2 初稿締切期限：12月末 ★最終稿提出期限=後期締切日</p> | | |
| 成績評価 | 種別 | 割合 | 評価基準 |
| | レポート | 80% | 教材内容を十分理解・修得し，レポートが作成されているかを基準とする（論旨明確さ，独創性，文章表現の妥当性，引用の適切性等）。 |
| | 観察記録 | 20% | 初稿段階から最終稿までのプロセスを含む取組みを評価基準とする。 |
| 履修者への要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・初稿の提出は締め切りを遵守すること。 ・基本教材は英文オリジナルの部分訳であるため，原著（Gaining and Sustaining Competitive Advantage, 2nd Edition）との併読が望ましい。 | | |

【レポート課題】

| 基本教材 1 | |
|----------|---|
| 教材の概要 | <p>著者名： ジェイ・B・バーニー 教材名： 『企業戦略論』上・中・下 ダイヤモンド社 各 2,400 円+税 上 ISBN:978-4-47-837452-8/中 ISBN:978-4-47-837453-5/下 ISBN:978-4-47-837454-2</p> <p>本書は、「資源アプローチ」の大御所バーニー教授による大著の邦訳である。「資源アプローチ」のみならず、ポーター教授の「ポジショニングアプローチ」他、これまでの経営戦略論の流れが分かりやすく示されている。国際戦略についても、かなりのスペースが割かれており、現代の経営戦略論を理解するためには必読の書物である。</p> |
| 参考図書 | <p>C. バートレット, S. ゴシャール『MBAのグローバル経営』（日本能率協会マネジメントセンター, 1998 年）ISBN:978-4-82-071315-9 2,600 円+税 ビッド・J・コリス他『資源ベースの経営戦略論』（東洋経済新報社, 2004 年）ISBN:978-4-49-252151-9 3,800 円+税</p> |
| 履修上のポイント | <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本教材は本格的な戦略論の大系であり、早期に通読するとともに、各章末に参照された論文を読むことにより、最新の経営理論を理解する。 2. 参考図書の『MBAのグローバル経営』は、国際経営に関する古典ともいえる重要な研究である。基本図書の国際経営に関する研究と合わせ、深い理解が望まれる。 3. 同じく、参考図書の『資源ベースの経営戦略論』は海外 MBA コースの標準テキストであり、原文との併読が有用である。 |
| レポート課題 1 | 国際戦略における持続的競争優位性について、詳述せよ。 |
| レポート課題 2 | <p>トランスナショナル戦略について、詳述せよ。</p> <p>留意点：1社以上のグローバル企業（日本企業以外でも可）を選び、説明のこと。</p> |

| 基本教材 2 | |
|----------|--|
| 教材の概要 | <p>著者名： 浅川和彦 教材名： 『グローバル経営入門』（日本経済新聞出版社, 2003 年）（9 刷, 2016 年）ISBN:978-4-53-213260-6 2,800 円+税</p> <p>本書は、グローバル経営の観点から、さまざまな経営上の課題を取り上げ、経営戦略上の包括的な分析を加えた、従来より定評のある教科書である。本書の内容の理解を下に、グローバル企業の国際経営の課題の熟知を図る。基本書、参考図書だけではなく、できるだけ、原語で書かれた経営学に関する教科書の直接理解を図る。</p> |
| 参考図書 | <p>チャン・キム, レネ・モボルニュ [新版] 『ブルー・オーシャン戦略』（ダイヤモンド社, 2015 年）ISBN:978-4-47-806513-6 2,000 円+税 スザンヌ・バーガー他『グローバル企業の成功戦略』（草思社, 2006 年）ISBN:978-4-79-421525-3 2,310 円+税</p> |
| 履修上のポイント | <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日のグローバル企業（米国, 日本, 欧州, アジアなど）は益々その活躍の場を世界に広めている。グローバル企業の現代的な課題と問題点を認識する。 2. 経営理論の発展の過程で、参考図書にあげた『ブルー・オーシャン戦略』が、現在、世界的な注目を集めている。この最新の理論の理解と実践面での応用の可能性につき深く検討する。 |
| レポート課題 1 | 日本企業のグローバル戦略の問題点につき、詳述せよ。 |
| レポート課題 2 | <p>『ブルー・オーシャン戦略』の新規性につき、論評せよ。</p> <p>留意点：従来よりの経営戦略との違いを明確にすること。</p> |

基本教材 1

| | |
|--------|---|
| 第 1 回 | 「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（第 1 章）を行う |
| 第 2 回 | 「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（第 2 章，第 3 章）を行う |
| 第 3 回 | 教材に基づく学修③（第 4 章，第 5 章） |
| 第 4 回 | 教材に基づく学修④（第 6 章，第 7 章） |
| 第 5 回 | 教材に基づく学修⑤（第 8 章，第 9 章） |
| 第 6 回 | 教材に基づく学修⑥（第 10 章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する |
| 第 7 回 | 教材に基づく学修⑦（第 11 章） |
| 第 8 回 | 教材に基づく学修⑧（第 12 章，第 13 章） |
| 第 9 回 | 教材に基づく学修⑨（第 14 章） |
| 第 10 回 | 教材に基づく学修⑩（第 15 章） |
| 第 11 回 | レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する |
| 第 12 回 | レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する |
| 第 13 回 | レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する |
| 第 14 回 | レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める |
| 第 15 回 | レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する |

基本教材 2

| | |
|--------|---|
| 第 1 回 | 「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（グローバル経営の考え方）を行う |
| 第 2 回 | 「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（グローバル経営の戦略論，グローバル経営戦略の諸側面）を行う |
| 第 3 回 | 教材に基づく学修③（グローバル経営の組織論） |
| 第 4 回 | 教材に基づく学修④（本社—海外子会社関係とその変遷，グローバル統合・ローカル適応の論理） |
| 第 5 回 | 教材に基づく学修⑤（多国籍企業の革新モデル：トランスナショナル経営論とその後） |
| 第 6 回 | 教材に基づく学修⑥（グローバル・イノベーションとナレッジ・マネジメント）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する |
| 第 7 回 | 教材に基づく学修⑦（グローバル R&D マネジメント，グローバル戦略提携のマネジメント） |
| 第 8 回 | 教材に基づく学修⑧（グローバルな人的資源戦略） |
| 第 9 回 | 教材に基づく学修⑨（リージョナル・マネジメント，グローバル経営における文化） |
| 第 10 回 | 教材に基づく学修⑩（グローバル経営の課題） |
| 第 11 回 | レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する |
| 第 12 回 | レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する |
| 第 13 回 | レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する |
| 第 14 回 | レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める |
| 第 15 回 | レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する |